

高木聖鶴さん文化勲章

総社市名誉市民の書家 高木聖鶴さん（真壁在住）が、科学技術や芸術などの文化の発展や向上にめざましい功績のある人に授与される文化勲章を受章しました。



記者会見で喜びを語る高木さん

総社市真壁在住の書家で、総社市名誉市民の高木聖鶴（本名・郁太）さんが、文化勲章を受章されました。岡山県出身者では8人目の快挙。受章の決定を受け高木さんは、「吉備の中心で栄えたこの郷土が、今回の栄誉を授けてくれた」と喜びを語りました。

「書は、君子のたしなみ」と、高木さんは話します。独学で書の道を歩み始め、昭和22年、岡山出身の書家、内田鶴雲氏に師事し、「かな」の書に取り組みました。昭和40年代初めからは書の道一筋に。高木さんは、「かな文字とは、平安時代に編み出された日本人の英知。漢字、かなと併用する

から美しさも出る」と話します。主に万葉集や古今和歌集といった古筆をもとに臨書を重ね、「受験生だった私よりも夜遅くまで励み、睡眠は3、4時間だったはず」と、長男で大東文化大教授の茂行さんは教えてくれました。

現在の門下生は1千人以上。日展理事などを経て、平成18年に文化功労者選ばれました。凛とした筆を握る姿は、90歳という年齢を感じさせません。後進の指導で岡山市内には毎月約10回、広島、東京にもほぼ毎月出向かれるとのこと。「良く噛んで食べる」のが健康の秘訣だと高木さんは話しました。

郷土の偉人、郷土の誇り



●記念作品展

受章を記念して高木さんの作品約30点を図書館に、7点を市役所に展示した



●慶祝記帳

市役所に来庁した多くの人がお祝いの記帳をした

市民総出でお祝い

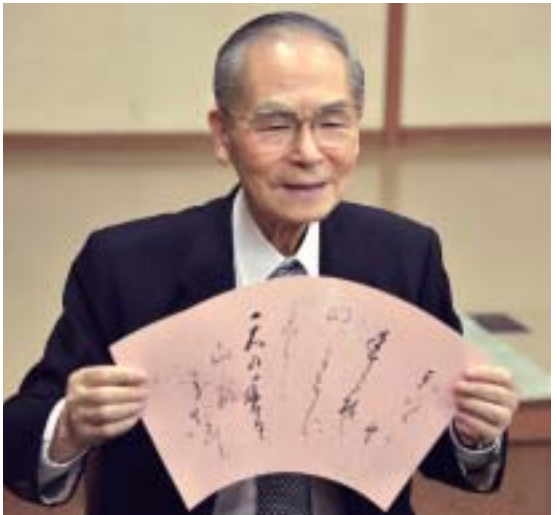
文化勲章受章を記念し市内でさまざまな祝賀行事を行いました。

◆主な受賞歴（書道関係）

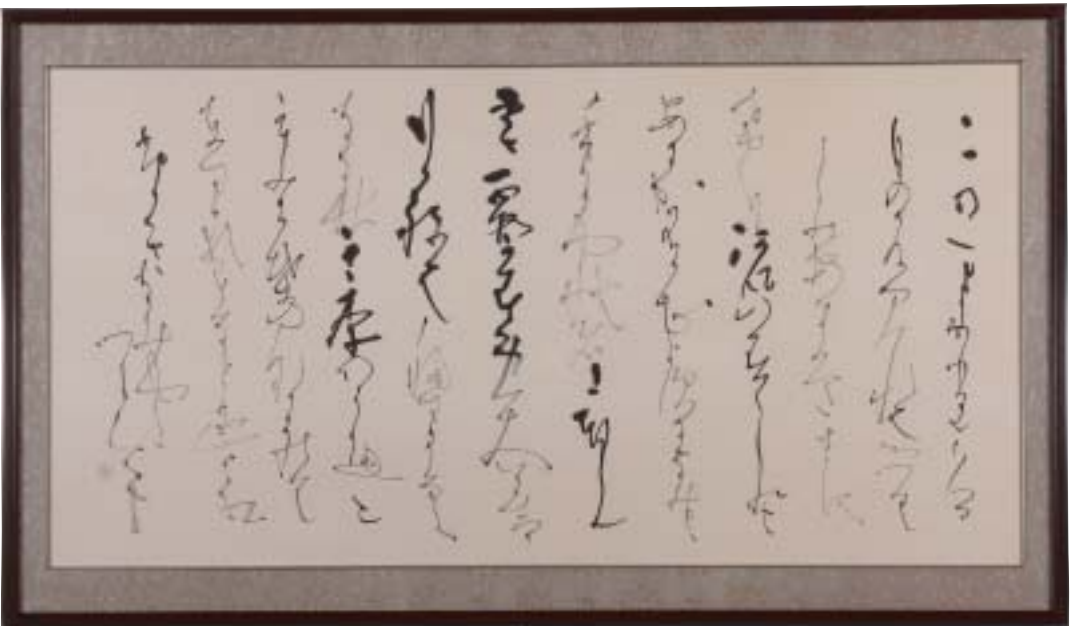
- 昭和48年 改組第5回日展で「萬葉のうた（天離る）」が特選を受賞
- 昭和61年 第18回日展で「春と秋」が日展会員賞を受賞
- 平成3年 第23回日展で「古今和歌集抄」が内閣総理大臣賞を受賞
- 平成7年 第26回日展（同6年）に出品した「春」により、日本芸術院賞を受賞

◆その他

- 昭和60年 山陽新聞賞（文化功労）
- 平成4年 三木記念賞
- 平成5年 岡山県文化賞
- 平成6年 紺綬褒章
- 平成10年 勲四等旭日小綬章
- 平成12年 第1回福武文化賞
- 平成16年 （社）日展参事（現在まで）
- 平成16年 総社市名誉市民
- 平成18年 文化功労者



本名：高木 郁太さん
大正12年7月12日生まれ



高木さんの代表作である日展内閣総理大臣賞を受賞した「古今和歌集抄」

このまより もりくる月の かげ見れば
心つくしの あきはきにけり (よみひとしらす)
河風の すずしくもあるか うちよする
なみとともにや 秋はたつらむ (紀貫之)
春霞 かすみていにし かりがねは
いまぞなくなる 秋ぎりのうへに (よみひとしらす)
もみぢ葉の ながれてとまる みなとには
紅ふかき なみやたつらむ (素性法師)